B 自由論題　文学・文化

報告 3　李珏（北海道大学・院）

中国インディペンデント映画の商業化の可能性に関する考察

～体制、観客の教養及び映画内容の観点から～

本発表は中国インディペンデント映画の中国国内における商業化の可能性を中国でのインディペンデント映画の定義と歴史及び現状の分析を通して、体制、観客の教養、及び映画の内容面という三つの観点から考察するものである。

まずインディペンデント映画一般的な定義を先行研究を通して明らかにし、それをもとに、中国におけるインディペンデント映画の定義を、中国独特の社会環境からに生み出されたこれの様々な別称の分析から絞り込んでいく。

インディペンデント映画が中国に現れたのは 1990 年である。同時代のアメリカでは、インディペンデント映画は内容と表現技法の独創性により、次第に注目され、主流映画と比べても劣らない地位を獲得したのに対して、中国での状況は誕生の当初から弱い位置に置かれ、上映禁止、観客がいない、そして、低い制作費にもかかわらず、これを回収できなかった。それでもインディペンデント映画監督たちは作品を作るため懸命に資金を調達した。なぜ報いのないことをやるのか、「国民に映画に対する認識を多元化させる」という賈樟柯監督の言葉からその思いが分かる。近年、中国の映画産業は急成長した結果、商業主義的な映画が氾濫し、興行収入と娯楽要素が映画を作る際に優先的に考慮されることになり、商業的、娯楽的要素は乏しいが、高い芸術性があるインディペンデント映画は主流市場に入れなくなった。

インディペンデント映画は興行収入を目的とするわけではないが、一定量の観客を確保すると同時に次の作品のための最低限の資金が回収できる商業化の必要がある。とはいえそのためには、国の体制、観客の教養、インディペンデント映画の内容について解決すべき問題が多くある。

本発表は中国インディペンデント映画の歴史を辿りながら、解決すべき問題点を、インディペンデント映画の発展にかかわる国の体制、観客の教養、及びインディペンデント映画の内容という三つの観点から考察し、解決の道筋を模索する。